

「働く」を再定義する

- 協同労働という新しい選択肢 -

「協同労働」という新しい働き方を知っていますか。

一般的な「雇う・雇われる」という関係ではなく、事業に参画する人々が「出資」し、「事業・経営の担い手」となり、地域や仲間と共に持続可能な地域社会づくりに向けて事業を興す働き方、まさに「自律的な働き方」そのものと言えます。

「自律的な働き方」ができる人たちを増やし、生涯、生きがいや働きがいをもちながら活躍し続けられる社会を目指します。

※スペインにあるモンドラゴン協同組合は、協同労働によって世界約 260 社、従業員約 7 万人を擁する経済圏を形成。持続可能な地域社会モデルとして注目されています。



協同労働インターンシッププログラム

キャリア研修と連動し、地域課題の現場で協同労働を体感する実践型プログラムです。

参加者は、自ら考え・話し合い・行動を決める「自律的な働き方」を学び、社会課題への関心と自己有用感が向上 (43%→71%)

今後、この変化を“人的資本指標として可視化する取組を進めていきます。

※協同労働インターンシップは、ワーカーズコープ・センター事業団、社会人材コミュニケーションズ、日本総合研究所の共同プログラムとして実施。

協同労働インターンシップの参加者の声

社会課題の“生の現場”に出会った。

協力し合いながら働く人々の姿に、解決の難しさと希望を感じた

任されるって、こんなに考えることなのか。

想いを共有し、仲間と事業を創る中での模索が、自律の感覚を呼び起こした

もう、歯車ではいられない。

自分の“働く理由”を見つめ直し、仕事が自分ごとになった

正解が無いからこそ、対話が要る。

立場や価値観の違いを超えて合意を作る難しさと面白さを知った

インターンシップ参加者の変化

Q. 自社で培った自身のスキルや経験が社会課題解決に役たつと感じるか。

